

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都千代田区九段北1-8-10

## 為替週間展望 = ドル円はもみ合いで推移か

[ 8月15日からの1週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		8月8日～8月12日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	135.09	135.58(8)	131.74(11)	133.25	-1.76
ユーロ・ドル	1.0183	1.0368(10)	1.0159(8)	1.0319	+0.0136
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	28,546.98	+371.11	日本10年債利回り	0.193	+0.018
ダウ平均株価	33,336.67	+533.20	米10年債利回り	2.888	+0.061
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 15日 英8月ライトムーブ住宅価格  
日本第2四半期国内総生産 (GDP) 1次速報  
中国7月鉱工業生産指数、中国7月小売売上高  
日本6月鉱工業生産指数確報値  
スイス7月生産者・輸入価格  
米8月NY連銀製造業景気指数  
カナダ6月製造業出荷、カナダ6月卸売上高  
米6月対米証券投資
- 16日 英7月雇用統計  
独8月ZEW景況感指数  
ユーロ圏6月貿易収支  
カナダ7月消費者物価指数  
米7月住宅着工・許可件数、米7月鉱工業生産・設備稼働率
- 17日 NZ第2四半期生産者物価指数  
日本7月貿易収支、日本6月機械受注高  
NZ準備銀行 (RBNZ) 政策金利  
英7月消費者物価指数、英7月生産者物価指数、英7月小売物価指数  
ユーロ圏第2四半期域内総生産 (GDP) 改定値  
米7月小売売上高  
米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨 (7月26～27日分)
- 18日 豪7月雇用統計  
ユーロ圏7月消費者物価指数確報値  
カナダ7月鉱工業製品価格  
米新規失業保険申請件数、米8月フィラデルフィア連銀景況指数  
米7月中古住宅販売件数、米7月景気先行指数
- 19日 NZ7月貿易収支  
日本7月消費者物価指数  
英7月小売売上高  
独7月生産者物価指数  
ユーロ圏6月経常収支  
カナダ6月小売売上高

【前回のレビュー】FRBによる利上げスタンスは継続するとみられる。その後のFOMCでも年内は利上げ継続が見込まれており、ドルの堅調な流れは継続することとなりそう。景気減速懸念で株安となれば、リスク回避の円買いに傾く可能性はあるものの、ドル円は底堅い流れが続くとした。

#### 【米消費者物価指数が市場予想を下回る】

10日に発表された7月の米消費者物価指数は前月比変わらず（予想は+0.2%、前回+1.3%）、前年比+8.5%（予想+8.7%、前回+9.1%）となり、コアは前月比+0.3%（予想+0.5%、前回+0.7%）、前年比+5.9%（前回+5.9%、予想+6.1%）となった。

いずれも市場予想を下回ったことで、米国でのインフレ警戒感が後退して、ドル売り円買いが広がった。ドル円は135円近辺でのみみ合いから、一時132円近くまで一気に下落した。その後は急落の反動から下げ渋りの動きを見せた。

5日に発表された米雇用統計が強い結果となり、ドル買い円売りが進んでドル円は135円台半ばまで上昇した。ただ、米消費者物価指数の下振れを受けてドル売り円買いの動きに傾き、米雇用統計を受けての上げ幅を一気に失った格好となる。

11日に発表された7月の米生産者物価指数は前月比-0.50%（予想+0.3%、前回+1.0%=改定値）、前年比+9.8%（予想+10.4%、前回+11.3%）、コアは前月比+0.2%（予想+0.4%、前回+0.4%）、前年比+7.6%（予想+7.7%、前回+8.4%=改定値）となった。予想から下振れしたことで、インフレ警戒感が後退して、ドル円は131.70台まで下落した。ただ、売り一巡後は下げ渋りを見せている。

10～11日には米連邦準備制度理事会（FRB）当局者のコメントが報じられている。エバンス米シカゴ連銀総裁は、「インフレは受け入れ難いほど高い」「インフレ報告は前月よりは良好」「今年の残りの期間、および2023年に向けて利上げを行う」「米雇用統計は引き続きとても力強い」「リセッションは想定していない」と述べた。

カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁、「インフレの下方へのサプライズを嬉しく思う」「FRBはインフレの勝利宣言には程遠い」「きょうのCPIは自身の道を変えるものではない」「高水準のCPIでFRBが利下げとの考えは非現実的」などと述べている。米サンフランシスコ地区連銀のデリー総裁は、「9月のFOMCで、0.75%の利上げの可能性を排除しないものの、0.50%の利上げがベースライン」と述べた。

いずれも今後の利上げ継続姿勢に変化をもたらすものではない。CME FEDウォッチでは0.50%の利上げ確率は65%程度、0.75%の利上げ確率は35%前後となっている。9月20～21日の次の米連邦公開市場委員会（FOMC）の前に米雇用統計、米消費者物価指数とももう一度ずつ発表を控えており、実際の利上げ幅は今後の経済指標の動向に左右されそうだ。

FRBによる利上げ姿勢は今後も継続するとみられる。ただ、米消費者物価指数の下振れで過度な利上げへも警戒感も後退しており、ドル円大きな崩れは見込みにくいものの、大きく上値を伸ばすのも難しいとみられ、もみ合いで推移することとなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、130.00～136.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、15日に日本第2四半期国内総生産（GDP）1次速報、日本6月鉱工業生産指数確報値、スイス7月生産者・輸入価格、米8月NY連銀製造業景気指数、米6月対米証券投資、16日に米7月住宅着工・許可件数、米7月鉱工業生産・設備稼働率、17日に日本7月貿易収支、日本6月機械受注高、米7月小売売上高、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨、18日に米新規失業保険申請件数、米8月フィラデルフィア連銀景況指数、米7月中古住宅販売件数、米7月景気先行指数、19日に日本7月消費者物価指数などがある。

#### 【ユーロドルはレンジ相場か】

米消費者物価指数を受けてのドル売りをを受けて、ユーロドルは10日に1.0368近辺まで上値を伸ばした。1.01～1.03台のレンジでの推移を上を抜けつつある。ただ、ユーロ圏はロシアの天然ガス供給削減によるエネルギー安全保障の問題を抱

えており、上値は限定的とみられる。

欧州中央銀行（ECB）がインフレ抑制のために利上げを継続するとみられるが、FRBの方がより積極的に利上げに動くと考えられ、ユーロドルは上昇が継続しにくいとみられる。こうした中、ユーロドルはレンジ相場での推移が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0100～1.0500ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、15日に中国7月鉱工業生産指数、中国7月小売売上高、スイス7月生産者・輸入価格、カナダ6月製造業出荷、カナダ6月卸売売上高、16日に英7月雇用統計、独8月ZEW景況感指数、ユーロ圏6月貿易収支、カナダ7月消費者物価指数、17日にNZ第2四半期生産者物価指数、NZ準備銀行（RBNZ）政策金利、英7月消費者物価指数、英7月生産者物価指数、英7月小売物価指数、ユーロ圏第2四半期域内総生産（GDP）改定値、18日に豪7月雇用統計、ユーロ圏7月消費者物価指数確報値、19日にNZ7月貿易収支、英7月小売売上高、独7月生産者物価指数、ユーロ圏6月経常収支、カナダ6月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

#### <著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。